

# すごいぞ！三船君

## 「12歳の文学賞」で大賞受賞

小学生の新人文学賞「第2回12歳の文学賞」(小学館主催)は3月4日発表され、大賞に岩手大附属小の三船恭太郎君(当時5年)=盛岡市桜台=の「ヘチマと僕と、そしてハヤ」が選ばれました。三船君

のお父さんの順弘さんは上区出身。村とつながりのある文学少年・恭太郎君を取材しないわけにはいきません。盛岡市の自宅に伺い受賞の喜びや苦労話などをうかがいました。(聞き手・広報ふだい)



### 「12歳の文学賞」で見事大賞を受賞した 三船恭太郎君 (11)



●プロフィール 平成9年1月生まれ。岩手大附属小6年。2006、07年岩手読書感想文コンクールで、2年連続で最優秀賞を受賞。そのほか作文、絵画コンクールなどにも多数入賞。趣味は川柳、観劇。好きなスポーツは小2から始めた柔道。将来の夢は内科医。でも、書くこともずっと続けたいと話します。

## 自分の気持ち、正直に

三船君にとっては、初の小説となった「ヘチマと僕と、そしてハヤ」。審査員からは高い完成度と豊かな表現力が評価され、2072作品の応募の中から満場一致で大賞に輝きました。

作品は、小学生の「僕」と、東京からの転校生ハヤを中心に友情や恋を書いた短編(単行本37頁)。ヘチマの成長とともに登場人物を生き生きと描く巧みな構成が光りました。

小説を書いたきっかけは、小説を読んでいて、「自分だったらこうゆう展開にするな」とか、「こうゆう結果にするな」と思うことが多く、だったら自分で書いてみようと思えました。

友達が小説のモデルと聞きましたが、替え歌は友達が歌っていたものを使いましたが、数人の友達を合わせてキャラクターをつくりました。

「苦勞したところは、会話文です。そのキャラクターに合ったものなのか、何度か読み返して確認しました。文章をうまく書くコツは、コツは分かりません。ただ

「どんなところに気を付けて書きましたか。」  
書きたい部分があると気持ち先行し、雑になってしまっているので、焦らず丁寧に書くことを心掛けました。

「苦勞したところは、」  
文章をうまく書くコツは、

ぼくは、自分の気持ちに正直に書くことを心掛けています。東京・千代田区の如水会館で贈賞式が行われたようすが緊張しましたか。

報道陣、カメラの数に驚きました。人という字を手のひらに何度も書き、お腹が人で一杯になった気がしました。けれども、多くの人に読んでもらえると思い、喜びが込み上げてきました。

「今後は続編という報道もありましたが。」  
続編は書いている途中です。登場人物も増えますが、後は秘密です。

「普代の味と言ったら。」  
新鮮な刺身、中村店の豆腐田楽、三船菓子屋のキャンデー(白)とマドレーヌなどです。想像しただけで、よだれが出ます。

三船君の作品も含めた上位9作品は、単行本「12歳の文学第2集(発行・小学館、定価千円+税)」に納められています。

村図書室でも貸し出していますので、ぜひ、皆さんも読んでみてはいかがでしょうか。

### 久慈地区 中総体

## バド・テニス女子が優勝 3競技4種目で県大会出場

第46回久慈地区中学校総合体育大会が6月14日から16日までの3日間、久慈管内の市町村を会場に開かれました。

普代中学校(後忠美校長、生徒91人)は、バドミントン個人・団体で完全優勝、ソフトテニス女子は個人戦で優勝と2位、野球が準優勝、ソフトテニス男子が個人戦で5位に入賞し、3競技4種目で県大会出場となりました。

そのほか、ソフトテニス男子団体は決勝トーナメント敗退、バスケットボール女子は1回戦で敗退、ソフトボールは予選リーグ敗退という結果になりました。

村社会体育館が会場のバドミントン部(落合勇樹部長、部員18人)は、久慈中を相手に団体・個人1位から3位まで独占し完全優勝しました。

団体戦は久慈中を2-0で破り、同大会10連覇と記録を更新。個人戦シングルスでは三船和輝(3年)が優勝、砂合洋介(同)が準優勝し、それぞれ県大会出場を決めました。

一方、ダブルスでは、3年の落合勇樹・古川和幸ペアが優勝、3年の佐藤旭・太田直希ペアが準優勝で、それぞれ県大会の出場権を獲得しました。

ソフトテニスでは野田村総合運動公園で行われ、女子ソフトテニス部(越戸菜

摘部長、部員4人)は個人戦で3年の越戸菜摘・前川千加子ペアが優勝、松家菜(2年)・中山心(1年)ペアが2位に入賞し、それぞれ県大会出場を決めました。

男子ソフトテニス部(中村駿人部長、部員15人)は個人戦では3年の太田圭亮・野田口俊一ペアが5位に入賞、代表決定戦で2勝し県大会出場となりました。

野球は久慈市営球場で行われ、野球部(正路拓也主将、部員23人)は1回戦、夏井中を3-2で、2回戦は種市中を7-0で、準決勝は三崎中を6-1で破り、決勝に進出しましたが、健闘むなしく4-1で宿戸中に破れ準優勝となりました。

県大会は7月19日から21日の3日間、ソフトテニスが一関市で、バドミントンが奥州市で、野球が普代村を含めた久慈地区の4球場を会場にそれぞれ行われます。(敬称略)

## ファイヤー119が大会2連覇 52回国保野球大会

第52回国保健康保険争奪野球大会が6月7日、北緯40度運動公園野球場で行われファイヤー119が大会2連覇を飾りました。

開会で商工会青年部の中村英伸部長は「精一杯プレーしてください」とあいさつ。参加5チームで熱戦を展開しました。

ファイヤー119

は1回戦はシードで、2回戦商工会青年部に12-2と快勝。決勝でのばっちと対戦しました。決勝は両者一歩も譲らず相手のミスをつき、取られたら取り返すという息をのむ展開。試合は最終回までもつれ込み、ファイヤー119はのばっちの追い上げを振り切り5-4で勝利しました。

個人賞では、ポイントカード会長賞にファイヤー119の砂子重良選手、商工会長賞に熊谷正志・隆志親子、青年部長賞にしんくろリンの赤坂正人選手がそれぞれ選ばれました。



大会10連覇のバドミントン部



優勝した女子ソフトテニス部  
5位の太田君(左)と野田口君



優勝は逃したものの県大会出場を決めた野球部

優勝は逃したものの県大会出場を決めた野球部

大会2連覇を喜ぶ皆さん



優勝ファイヤー119

